



○令和4年度 1 学期始業式講話(抜粋)

*写真は加茂町のしだれ桜です。

小さな挑戦、小さな気遣い、大きな志、～自立した大人となるために～

＜前段略＞桜も満開です。新年度を迎え、みなさんには、気持ちも新たに宮沢賢治の「雨にも負けず、風にも負けず…」の気持ちでがんばって欲しいと思います。この詩には、忍耐だけでなく、人への思いやり、気遣いの意味も込められていると思っています。

コロナ禍では、大きな声を出すことやマスクをはずしての会話は自粛が求められています。このため、相手の言うことが聞こえにくいことはしばしばです。しかし、聴覚障がいがある人に思いをはせてみてください。声が出せない人もいます。インクルーシブ社会、ダイバーシティの意味を考えるとともに、コロナ禍にあっては、思いやりや気遣いがとても大事ではないでしょうか。

そのこともあって、今年度のスタートにあたり、合い言葉を少し変えました。

「小さな挑戦、小さな気遣い、大きな志 ～自立した大人となるために～」です。

「小さな挑戦」はそのままです。昨年度より、いや昨日より小さな挑戦、小さな変化に取り組んでください。先生方にもお願いしています。本当に小さいこと、些細なことでもかまいませんから、昨年度より、昨日よりここを変えよう、このことに挑戦してみようと取り組んでほしいと思います。学習でも、部活動でも、家庭での生活でも何でもいいです。それを考え、じっくり取り組むことがそれぞれの自立につながると信じています。

変えたのは「小さな善行」です。「小さな気遣い」に変えました。思いは同じですが、行動がすべてではなく、まずは自分の心に少しの余裕を持つこと。その余裕を、相手を思いやる気持ちにもつなげて欲しいという意味を込めました。気遣いを行動に移せばベストですが、必ずしも直接的な行動でなくてもいいのです。例えば、手話を少し覚えてみる。それは聴覚障がいの人に思いをはせた気遣いで、すぐには役に立たないかもしれませんが、思いやりや気遣いの気持ちを育むことにつながり、結果的に自分の成長にもつながります。教室で人に呼ばれて立つとき、椅子を机にしまう余裕を持つ。エレベーターで閉まるボタンを押さない余裕を持つ。それは自分の心に余裕も持つことになるし、見えない誰かの事故防止にもつながります。

心の余裕を持つには、心を整えることが大事です。昔サッカーの長谷部選手の本に題名にもなりましたが、もの事に向かう時には、心が整っていなければ決していい結果は得られないし、何かを吸収しようとする時にも心が整っていなければ入ってきません。部活動の勝負の場面ではよく言われますが、決してそこだけではなく、授業、集会・式典、家庭学習でも一緒です。その意味もあって最初に心を整えてもらう時間を設けました。

最後に「確かな志」、「大きな志」です。私も使うときに言葉が揺れていましたが、「大きな志」で一本化します。札幌農学校のクラーク博士の「少年よ！大志を抱け」の言葉にも込められたように、コロナ禍で先が見えにくい状況だからこそ、見失わない大きな志をもって、自分の限界を少し超えた目標を定めて、努力を積み重ねていく過程を大事にして欲しいと思います。

みなさんの可能性は無限大です。私たち教職員は、みなさんの可能性を高め、広げるための努力を惜しみません。これから1年間「チーム三高／チームカケコー」でがんばりましょう。

